

関西詩人協会 緊急出版

「コロナアンソロジー2020」募集要項

関西詩人協会では、「コロナアンソロジー2020」を出版することになりました。

ご存じのように、1月から新型コロナウイルス感染が全世界的に広がり、日本でも4月に緊急事態宣言が出され、感染防止のため、経済活動や不急不要の集まりの自粛要請が行われてきました。その状況を踏まえ、会報でお伝えしていますように、当協会でも、文学散歩、絵画展、詩話会などの企画を、断念せざるを得ませんでした。

そこで、自粛が続くなか、会員同士の交流や会外の人たちへの発信を目的に、「コロナアンソロジー」を発行することにしました。年度当初にはなかった緊急の出版企画ですが、趣旨をご理解いただき、それぞれの思いのこもった作品をお待ちしています。規定をよく読んでいただき期日までにお送りください。なお、不明な点がありましたら編集委員までお尋ねください。

【募集要項】

(詩集の体裁)

- 軽装本
- 竹林館より 2020年12月発行予定
- ご挨拶：左子真由美 おわりに：編集委員
- 体裁 一人1頁2段組み。末尾に各自の略歴掲載。

(原稿規定)

- 詩歌作品 (詩・俳句・短歌・川柳・エッセイ)

詩作品・エッセイ作品

本文 25文字×36行まで (タイトル、筆名は別)

未発表、既発表は問わない。

A4サイズの用紙を使用。(メール可)

俳句・短歌・川柳作品

一人1頁 (15から20作品程度)

- 略歴について

筆名のひらがな読み

当会以外の所属団体、詩誌など (合計3つまで)

既刊詩書 (詩集、句集、歌集、川柳本、評論集など明記の上、合計3冊まで)

- 校正について

本人校正は1回、他は担当委員にお任せください。

- 締め切り

2020年8月31日必着・厳守 (郵送)

- 送付先 市原礼子宛 〒560-0006 大阪府豊中市西緑丘1-4-1-204

- 送付の際は封筒に「コロナアンソロジー2020 作品在中」と明記

データのある方は別途、永井ますみ (DZM03624@nifty.com) 宛にご送付ください。

ただしその場合も、プリント原稿を市原さん宛にお送り下さい。

- 参加費 2000円

振り込みは「コロナアンソロジー2020」と明記して会の郵便口座に ご送金ください。

口座番号：01010-8-84447 関西詩人協会

- 参加者には、詩集1冊を配布。参加者の追加注文は定価の80%で (送料込み) でお受けします。



企画経過と趣旨

関西詩人協会では、今年度の取り組みとして、2020年内発行予定の「緊急コロナアンソロジー」を出版することになりました。コロナウイルス感染の拡大に伴い、緊急事態宣言が出され、不急不要の集まりの自粛要請が行われてきました。その状況を踏まえ、会報でお伝えしていますように、関西詩人協会でも、文学散歩、絵画展、詩話会などの企画を、断念せざるを得ませんでした。

4月19・20日のメール運営委員会では「9月のイベントをふくめ、今年度のすべての取り組みが中止になる場合『コロナアンソロジー』を発行してはどうか」という提案が出され論議をしてきました。さらに、今のコロナの状況や関西詩人協会の意義を踏まえ論議した結果、6月20日の運営委員会で、「9月イベント」の実施と「コロナアンソロジー2020の出版」の両方の取り組みを行うことに決定しました。

「コロナアンソロジー2020」については、「コロナ感染」のさなかにあつて、「創作行為としては次期尚早」と、表現者の自主性や主体性という視点からの貴重な意見が出されました。それらを含めて、論議した結果、次の2つの観点を押さえました。

第1は、今年度のコロナウイルスの感染拡大により、今年度予定していた多くの企画ができなくなったことを受け、関西詩人協会らしい企画として「アンソロジー発行」を位置づけるということです。それゆえ、できるだけ多くの会員が参加できるように、作品の幅を広げ「詩歌やエッセイ」とし、参加費もできるだけ安くなるように工夫することにしました。



第2は、従来訳詩詩集や自薦詩集を作成してきた関西詩人協会独自の経験を活かしながら、一方で、「コロナウイルス」という現在進行形の事象を素材にしたアンソロジー作成に臨むうえで、あらためて、関西詩人協会の理念を大事にしていこうということです。したがって、4F（フリー・フレンドリー・フラット・フレッシュ）を大切に、それぞれの「思い」や「表現」に立脚した多様な作品群が響きあう「アンソロジー」になるように努力していくことにしました。

さて、4月7日発令の非常事態宣言は解除されたものの、コロナウイルス感染は収束していません。今回の事態は、感染医療対策の課題にとどまらず、政治的経済的な問題、人間関係の問題、人間と自然との共存の問題を含め、ひとりひとりの死生観や人と人との関係の変容あるいは再認識が日々迫られています。

そのような日々にあつて、関西詩人協会会員同士の交流の場として、会員外の人たちへの発信として、また、未来の人たちへの記憶として、「アンソロジー」に私たちの言葉を記すことの意味は、決して小さくはないと思います。

ぜひ、この趣旨にご理解をいただき、多くの方のご参加、よろしくお願いいたします。

関西詩人協会「コロナアンソロジー2020」編集委員会

編集委員 北村真、永井ますみ、榊次郎、市原礼子、中西衛

2020年6月20日